



[農業経営部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

4. 小房ブドウ栽培の導入による経営的效果の試算ツール

[要約]

小房ブドウ栽培の導入による農業所得や労働時間を試算する手法を開発した。本手法を用いると小房栽培導入時の所得や年間労働時間が確認でき、小房栽培導入の検討に役立つ。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 作物・経営研究室

[連絡先] 電話086-955-0275

[分類] 技術

[背景・ねらい]

農業研究所では、県産ブドウの新たな消費を喚起して需要拡大を図るため、「高品質な食べきりサイズ」の小房ブドウ生産技術を開発した。小房栽培は所得向上や労働時間配分の効率化に取り組む生産者に有効であり、これらの生産者に所得向上や労働時間の変化を分かりやすく提示するツールを作成する。

[成果の内容・特徴]

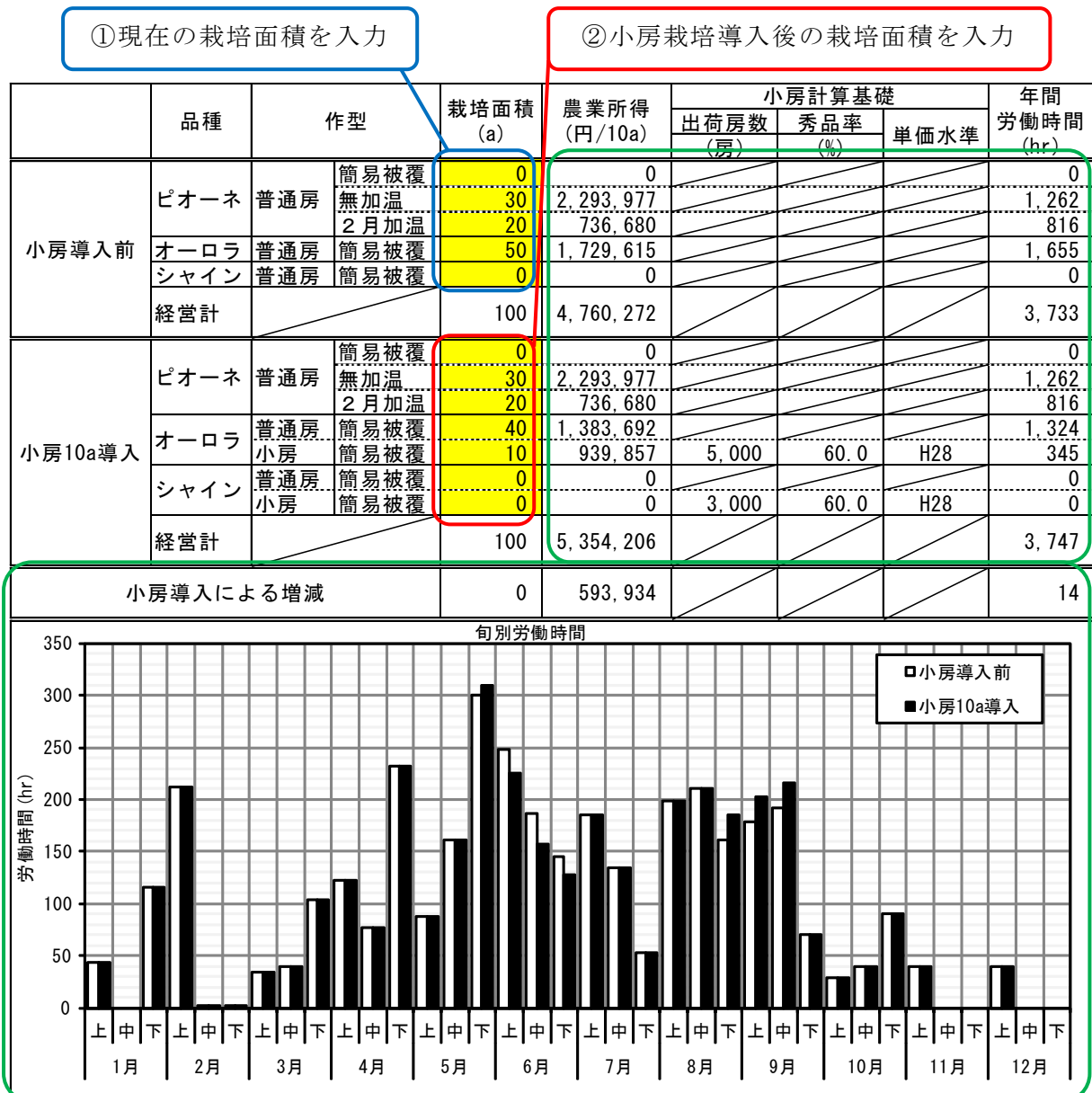
1. 本ツールはエクセルを使用しており、小房栽培の導入による所得や労働時間の変化を試算できる。
2. 小房導入前後の品種作型毎の栽培面積を入力することで（図1-①、②）、小房導入による農業所得、労働時間の増減が試算できる（図1-③）。
3. 労働時間については、年間労働時間に加え、グラフにより旬別の労働時間を確認できる（図1-③）。
4. 選択できる品種作型は、「オーロラブラック」と「シャインマスカット」の簡易被覆栽培での小房と普通房、「ピオーネ」の簡易被覆、無加温、2月加温作型での普通房の7パターンである（図1-①、②）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本ツールは各農業普及指導センターに配布する。
2. 本手法では、平成27年度経営指導指標の経営収支、労働時間を基に小房ブドウ栽培実証と試験販売で得られた出荷量、販売単価、出荷資材価格、運賃、販売手数料、小房ブドウ栽培の労働時間を用いて試算を行う。
3. 「シャインマスカット」の小房については、上が小房、下が普通房として栽培した場合の値を用いており、今後、栽培方法の改良により数値が変わる可能性がある。



[具体的データ]



③小房栽培導入前後の農業所得、労働時間及び
小房栽培導入による農業所得、労働時間の増減が出力

図 1 試算例

[その他]

研究課題名：個人消費のスタイルに即したブドウ生産技術の開発

予算区分：県単

研究期間：2014～2016年度

研究担当者：井上智博、中島譲

関連情報等：1) 特許第5751507号「無核ブドウの房づくり方法、及びその方法によって生産される生食用ブドウ」

2) [平成27年度試験研究主要成果、57-58](#)3) [平成28年度試験研究主要成果、27-28](#)4) [平成28年度試験研究主要成果、79-80](#)